

講演会事後アンケート結果

1. 年代

10代	1
20代	29
30代	16
40代	31
50代	28
60代	10
総計	115

2. 職業

医療従事者	80
学生	19
教育関係者	9
行政保健師	2
その他	5
総計	115

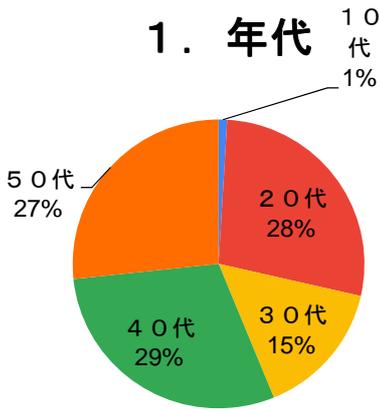
3. 講演会参加後の出生前診断に対する印象をお聞かせください。

議論すべき点が多い。慎重に関わらなければならない。	51
注意すべき点はあるが、うまく利用すれば社会に貢献する医療である。	42
母児のために有効な医療である。	20
総計	113

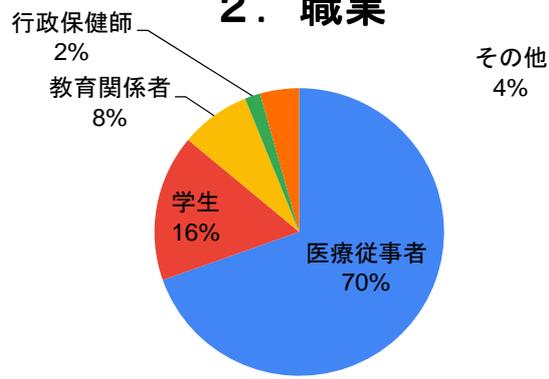
4. 出生前診断に関わる情報を産婦人科外来でどう扱ったら良いでしょうか？

全ての妊婦さんに積極的に情報提供を行う。	27
妊婦さんから申し出があれば情報提供を行う。	57
年齢等の条件を設けて当てはまる妊婦さんに情報提供を行う。	26
総計	110

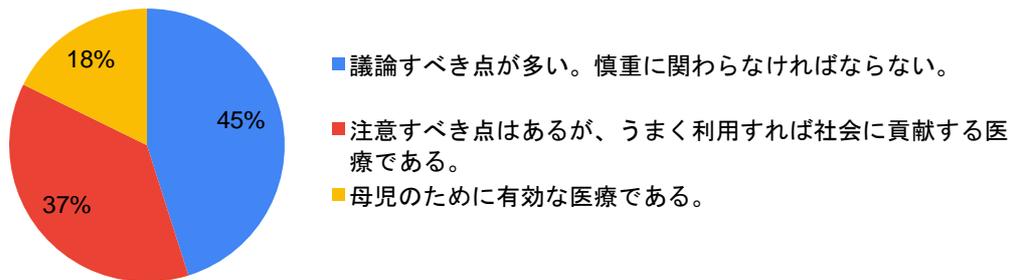
1. 年代



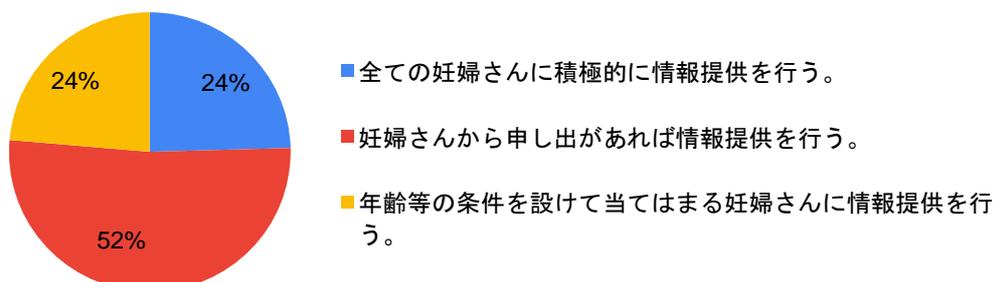
2. 職業



3. 講演会参加後の出生前診断に対する印象をお聞かせください。



4. 出生前診断に関わる情報を産婦人科外来でどう扱ったら良いでしょうか？



5. 北信総合病院で出生前診断についてのご相談を担当する外来の名称を募集しています。

りんご外来
ふきのとう外来
かがやき外来 きずな外来
たんぽぽ外来
チューリップ
チューリップ外来(チューリップは咲いてからでないといけないお花です)
ことり外来
ゆきんこ外来
つむぎ外来
コウノトリ外来
ふるさと外来 (中野市の高野辰之にちなんで。また、いつでもこころの故郷であるように)
青い鳥外来
ほくしんあい外来
すずらん外来
つながり外来
みらい外来/きずな外来
色々なカラーがあって人って素晴らしいという意味で、にじいろ外来
ぽんぽこ外来
コアラ外来 (大きな耳が話をちゃんと聞く、木につかまっている、赤ちゃんといつも一緒にいるところが、ぎゅっと抱きしめてくれるイメージで)
にじいろ外来
繋がる外来
ほほえみ外来
よつば外来: 四葉には葉一枚ごとに希望 幸福 愛情 健康の意味があるが、それこそ家族会の方々や医療者の思いを込めてもいいのではないかと思います。
コウノドリ外来
こもれび
スマイル外来 笑顔になってもらうための外来という意味で。
ゆりかご外来
あいたい(愛胎)
ふたば外来
希の子(きのこ)外来
「あなたのキモチ応援します..」チア・アップ! 外来
ぶどう外来
つなぐハート外来
菜の花外来(花言葉 元気いっぱい 小さな幸せ)
にじいろ外来
クルト... ドイツ語で思いやりのあるっというような意味があるらしい?
ぽんぽこ外来 あすなろ外来
あなたと伴走外来 (Y&B外来)
にじ外来
ペンギン外来
あんず外来
つむぐ外来 繊維をつむぎ一本の糸にする意 またはリボン外来
なのはな外来
出会い外来
つくし外来
めばえ外来 もえぎ外来
アスパラっこ
さくらんぼ外来
ひまわり外来
ほほえみ外来

コウノトリ外来
さくらんぼ外来
産科相談室
ゆりかご外来
長野赤十字病院
ささゆり外来 お花の名前どうでしょうか
ぼよぼよ外来
りんごちゃん外来
しあわせ外来
きらら外来（太陽の光のイメージ）
ばら外来
ひまわり
ハーモニー外来
さくら
りんご外来
にじいろ外来、みらい外来

6. 今回の講演会はいかがでしたか。感想をお聞かせください。

素晴らしい会でした ありがとうございました
学校で勉強してきたふわっとした知識はありましたが、実際の検査の流れや現実問題、どのような説明をされているのかわかれて勉強になりました。また18トリソミーのご家族の話を聴けて思ったより支援がたくさんあるんだなと知れました。
長野県の取り組みとして医療的現状の把握や、確認が出来ました。今後の外来の対応として、参考にしたいと思います。今回の講演会で何より勉強になったのは、子どもを育てる支援の輪を知ることや、家族の愛する我が子への思いや関わり等、医療従事者として学ぶべき内容がたくさんありました。
大変勉強になりました
出生前診断に対して、自分なりの考えがまとまりました。この先変わることも有り得ますが、今のところ、優生思想のようなものは無くなり、うちの子ならどんな風にでも一緒に生きていきたいなと思いました。
大変勉強になりました。ありがとうございました。
参加してとても良かったです。特に、障害を持つお子さんの子育てされているご家族の話を聞いて、とても勉強になりました。
丁寧な講演で現状が分かりやすい。
障害児を育てるお母さん達の実際の声が聞いて、とても有意義でした。
医師だけでなく実際のお母さんたちのお話が聞いて、医師としての考えとお母さんたちの希望を聞くことができ良かったです。実際に臨床に出たときの関わりとして、今日の講演内容を参考に関わることをしていきたいと思いました。
まずNIPTということを知らなかったが、今回知る機会になったので良かった。 倫理的な問題も含まれてくるため難しいなと思った。
医師の立場からの話、障害を抱えるご家族からの話など様々な立場の方からの話が聞いてとても勉強になりました。
知らない事を知れて有意義な時間を過ごすことができた。全ての命を偏見なく平等に見られる世の中になるように情報発信をする1人になりたいと思った。ありがとうございました。
ダウン症の子どもを持った時の感情と子育てをしていく中での感情の変化を知り、障がいの有無に関わらず、我が子が愛おしくて大切な存在であることには変わりはないんだなと思いました。小さい体で何度も大きな手術を受けている赤ちゃんを尊敬しました。
様々な立場の方のお話が聞いて、大変充実した講演会だったと思います。
医療者と実際にトリソミーの子供を育てる家族の立場からの話を聞くことができ、参考になった。出生前診断は難しい問題で、簡単に答えは出ないけれど、「もし自分の子供になにか障害があったら」という不安は全ての妊婦さんが少なからず持っている不安だと思う。地域で幸せに暮らしている家族がいること、子供たちが愛されていることの情報を得やすい環境が必要だと思った。妊娠中、出産後を病院、地域一丸となって支えられるような仕組みづくりができたならご家族がもっと幸せに暮らせる社会になるのではないかなと思う。
最新の出生前診断についての詳しい情報（空中戦での流れも含めて）を知ることができ、出生前診断に対する難しさをより感じました。 また障害児やその家族の生活や思いを知ることができ、生命の尊さと素晴らしさを改めて感じることができました。 身近でも検査についての相談を受けるので、先生方や障害をもった児とご家族の思いも踏まえて話をするなりYS外来などへ繋げるなりしていきたいと思いました。貴重なお話がきけてとても有難かったです。ありがとうございました。
出生前診断についての社会的な問題について考え、こんなに複雑であることを実感しました。NIPTを特別視することの不信感や、検査のメリットを取り上げて受けることを進めることが家族の未来を考えたときに良いことなのか、難しく感じました。それでも今回の講演会で子育てを経験した母親目線の、医療従事者の寄り添いに救われたという思いから、医療職種として家族に関わることの重要性和責任を知り、家族の話を聞くことが助産師としてできることだと実感しました。今後も変わりゆく医療に対して最先端の検査などが利用されるようになっていくことが予測されますが、対象者の数年後の未来を考えてニーズに寄り添うことを大切にできたらと思います。とても興味深く学ばせていただきました。ありがとうございました。
家族会の講演は本当に貴重な時間でした もっと機会がほしいなと思いました また、希少な遺伝子の疾患についても、家族会も含めぜひとも機会を作っていただきたいです 準備など本当にありがとうございました
NIPTを受けたいと考えている妊婦さんは、健康な赤ちゃんを産みたいという気持ちから希望する人がほとんどであると思いますが、NIPTは染色体異常を調べるための一つ的手段でしかなく、それ以外の疾患の有無については分からないということや、実際に高齢妊婦でも陽性になる確率はそこまで高くないことを考えると、積極的に調べる事を勧めるものではないと改めて考えさせられました。受けることにメリットデメリットはなく、最終的に受けるかどうかの判断はご両親でよく考えていくことであると思うし、私たちは医療職者として納得できる選択ができるようにサポートしていく必要があると感じました。

講演を傾聴し、出生前診断はなぜ行うべきかを改めて考えさせられました。一番はあかちゃん(胎児)が出生前から対応できる医療や治療ができる方法を模索やプランを準備できることが重要であるためであり、今社会の認識が染色体異常を発見するためみたいな出生前診断に勘違いされているところが、一人歩きしてしまっている事でしょうか。だから医療の進歩は、時代と共に発展していくことは当たり前で重要ですが、社会の認識を変える手立てが必要と感じました。また助産師をしていますので、生まれた瞬間に「あっ！」と驚きや今後のお母さんのケアをどうしようかと考えがちですが、発表者の方に「おめでとう、可愛いね、良かったね」と声をかけてくださったことが診断されてから落ち込んだ時も「この言葉が忘れられない」とおっしゃっていました。ずっとそのスタンスで仕事をしていますが、改めてこのままでいようと思い、医療者の心も癒された講演会でした。ありがとうございました。これから進んでいくこの医療に対応できるためカウンセリングを習得できるように学んでいきます。

貴重なお話を聞けてとても良かったです。今後のためになる話でした。

出生前診断、ダウン症のお子さんを持つご家族について、理解を深めることができました。限られた妊娠期間で、出生前診断のことや障がい理解して選択するのはとても難しいと感じました。社会全体への知識普及や、空中戦で間違っただけの情報に踊らされないよう予防する事にも限界はありますが、努力は必要だと分かりました。

また、障がいをもつお母さんの思いも、私が思っていたものと違っていました。健全な子と同じように大変で、幸せな子育てだと分かりました。広く社会に理解が広まっていったらいいと思いました。

保健師としてこのような出生前診断やお母さんの気持ちなどを知り、考える機会をいただけてとてもよかったです。講演会を開いていただき、ありがとうございました。

知識の再確認ができ、助産師としての関わり方を考えるきっかけになった。

とても勉強になりました。障害のあるこどものお母さんは強いなと思いました。沢山の経験を経て、強くなられたのだと思いますが、このような形で講演会でお話を聞けるのはとてもためになりました。普段周りに障害者がいないと知ることがない生活や障害のある子どもとの関わり方、本当に勉強になりました。出生前診断は遺伝子学の進歩で可能になりましたが、本日公演していただいたお母さん達のように前に進んで行ける親ばかりではないと思うので、適切に活用していけたらいいのではないかと思います。貴重な講演会を開催していただき、ありがとうございました。

久しぶりに産科関連の講演に参加しました。

出生前診断は一人ひとりの妊婦やその家族に適切に提供されるべき情報であり
出生前診断について医療者側的確な理解が重要視される内容だと感じました。
安易に情報だけを提供することは避けた。

出生前診断について、わかりやすくお話を聞けて良かったです。障害や病気のある子もない子も、みんな等しく大切な命であって、その子自身や家族をどのように支えていったら良いか、改めて考える機会にもなりました。また、出生前診断に関して、妊婦さんやご家族がどのような意思決定、選択をしても、味方となって寄り添い支える関わりを大事にしていきたいと思いました。

貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。

命の選択ともなる出生前診断は慎重に考えていく必要があると考えます。しかし近年、SNSの普及に伴い正しい情報や間違っている情報など、判断しづらくなってきているのではないかと感じます。その中で、認可されていない施設が出生前診断を行うことや出生前診断について正しくない情報が飛び交っていることや、その中で妊婦さんが無認可の施設を自ら選択しているなどの現状があり、認可された施設で適切なカウンセリングや診断が行われる必要があると感じました。また、出生前診断をする・しないという選択が良い、悪いということではなく、認可された施設で正しいカウンセリングを受け選択できるような支援が必要であり、その選択が数年後振り返っても納得できるように支えていく役割がYS外来にはあるのだということを感じました。妊産婦さんは様々な不安を抱えている中で、いろんな医療従事者から話を聴きますが、その中でも助産師は妊産婦さんと関わりが大きく、一番身近な存在であると考えます。現在、助産学生として学んでいますが、前述したような現状を知り、当事者側、医療者側の視点から考えていくことを大切にしていきたいと思いました。

母親のお話が聞けたのがよかったです。実際に地域でダウン症のお子さんとその家族と関わらせて頂いて3年になります。社会資源以前に、ダウン症について知らないことばかりでした。とても勉強になっています。そして、お子さんがとにかくかわいいです。

出生前診断についてすごく勉強になりました。

貴重なお話ありがとうございました。

出生前診断はただ純粋に胎児のことを知りたいと思う人がいれば、中絶を視野に入れている人もいて様々なんだなと思いました。ですが、家族会の話や実際の母親の話をお聞きして、大変だけど可愛い、という言葉があり、診断を受けた時はショックや不安があれど、だんだん変わってくるのだと思いました。今回は、出産してから家族会を紹介されたとあったが、出生前診断で診断された妊婦さんでもその家族会に参加してどんなふうに成長しているのかイメージができるようになっていけばいいのではないかと考えました。また、出生前診断は情報提供することも大切であるが、その分たえ時間が少なくても妊婦さんとそのパートナーの話聞くことも医療者として大切なことだと学びました。

NIPTは母児侵襲なく実施できる分、その検査が本当に必要か、またなぜその検査を患者が希望するかなどを慎重に考慮し、提供していく必要があると感じた。

出生前診断が妊婦さんへどんな影響を与えるか、医療者としてどんな考えを持っていていいのか考える機会となった。幸せの形はそれぞれの家族で違い、障害を持って生まれた子たちのたくさんの笑顔が見られて、こちらも温かく、幸せな気持ちになれました。障害児、家族に寄り添い、支えとなる医療従事者でありたいと思います。

小児医療についても考えるいい機会でした。講演会ありがとうございました。

ダウン症のお子さんを育てている講師の方々のお話の中で印象に残ったことは、障害があっても「受け入れが大変なこともあるけど、時間の経過とともに必ず受け入れ、必ず幸せだと、またそのお子さんがかわいいと思える瞬間がある」ということです。

私も家族に障害をもつ兄弟がいますが、幼少の時に周りからかわいそうだとと言われることもありましたし、親も大変なこともちろもありましたけど、本人は楽しそうにご飯も食べて友達と楽しそうに遊んでいます。怒ることもそんなになく、いつも優しく、いつも笑顔で過ごしてます。確かに出来ないことも多くありますが、誰かの助けを借りて、また助けてくれる人が必ず出てきて助けてくれます。そういう人生を引き寄せる力もあるんじゃないかなと思うこともあります。つまり、障害があるから不幸ではないということで、それをもっと発信して、社会の共通認識となればと思います。

そうであるなら、胎児診断の為に出生前診断は必要かもしれないけど、（治療が必要な時の準備の為に）妊婦さんの不安解消のための検査は

いらないのかなとも思ってしまう。

妊婦さんの不安は、医療者が人員を確保して

話しを聴く体制を構築して軽減に努めることができればと思いました。

貴重なお話を聞けて大変勉強になりました。ありがとうございました。

良かった。県内のNIPTへの取り組み方が知れた。

母親の生の声は貴重でした

出生前診断に携わる者として、正しく様々な知識を持って対象者に選択肢を与えられるようにしていかなければならないと思いました。

障がいを持つ当事者の母からの話が興味深かったです。

看護職として、傾聴し寄り添う姿勢を大切にしていきたいと強く感じました。

ありがとうございました。

出生前診断はきちんとした面談・カウンセリングが1番重要であると、本日の講演でよくわかりました。出生前診断を受ける前の面談が大切なのはもちろんですが、出生前診断を受けたあと、患者さんがどのような選択をしても後悔しないよう、この選択が正しかったと思えるかわりをする。とても難しいことだと思いますが、一番は常に患者さんに寄り添い続けることが大切なのだ学びました。

また実際に障害のあるお子さんを育てられている方の話はとても心に響きました。ここに至るまでに、色々な困難や葛藤があったと思いますが、どの方もお子さんを心から愛し、可愛くてしょうがないという気持ちが溢れていたのが印象的でした。障害があっても決して不幸ではない、色々な幸せのかたちがあるということ学びました。ありがとうございました。

産まれてくる赤ちゃんのために、妊娠中から医療体制と心の準備をし、また、サークルの紹介をすることで、産まれてから、病院と地域で支えることができる、ということ改めて実感しました。

総合周産期母子医療センター（某品川の病院）で勤務していた際は、妊娠中に障害がわかっていた場合は、MFICU、NICUのカンファレンスの中で看取りに関しても話をするので、いざ退院できるとなると逆に受け入れられない（自宅で過ごすことに対する不安）ために、ご家族もいるということ聞いていました。面会の回数が減ることも…。倉下さんの講演を拝聴して、率直に素敵なお家族だなと思いました。山口さん、小島さんの講演も自分の中の少しマイナスなイメージが変わるような内容でした。何よりも動画が素敵でした！貴重なお時間をありがとうございました。

皆さんのお話から、「どの子どもどの命も大切にしたい」という思いが伝わってきました。
「すべての児童は」から始まる児童憲章があります。
母子手帳にも載っている12の文章から構成される児童憲章ですが、はたして子どもの人権は守られているのでしょうか。
この児童憲章の一つ付け足すとすれば
「すべての児童は望まれて生まれてくる」
と私は考えています。
出生前診断をきっかけに、生まれてくる赤ちゃんの命について深く考える機会になるといいと思います。

出生前診断が商業主義化しているのが凄く心配でしたが、長野はそんな状況でないことが分かり安心しました。
45歳の初産婦の知り合いが、出生前診断なんてしなくていいと突き放されたのが今思い出しても辛かったと聞いています。
検査さえすればいいとは思いませんが、しっかり話を聞いてもらえる時間があつたらなと思ってました。一人で悩まなくてもいいんだと思えるお母さんが一人でも増えることを願っています。ご苦労は多いと思いますが期待しております

知識が浅いなかで講演を聞かせていただき、無認可施設が多いことに驚きました。私自身、今お腹に赤ちゃんがおり、6年ぶりの出産を控えてる35歳です。そのため、出生前診断にとっても興味があり、先日ネットで無認可の施設を検索していた身でした。

改めて、こういうお母さんたちに寄り添える医療現場が増え、正しい知識がより世の中に浸透して欲しいということと、国がもっと支援をしてくれるような検査体制ができることを願います。

また、ダウン症と18トリソミーの親御さんのお話をお聞きし、子供への愛の大きさは変わりないと感じとても感銘を受けました。出生前診断を受けようか正直悩んでいたのですが、どんなこが生まれてきても受け入れてあげたいなと講演を通して感じました。ありがとうございました。

医療、お母様の体験談。いろいろな視野で学ぶ機会となりました。医療は今後、空中戦がキーワードとなるか！？経験談は、やはり周囲の人々がどう支えるか？どんな子でも同じと思います。

企画運営は、御多忙中お疲れ様でした。、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

出生前診断は慎重に扱わなければならない課題であることがよく理解できました。

障害のある子を育てるお母さん方の生の声が聞けて、貴重な機会となりました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。(4)について、どうすべきなのかよくわかりません。むしろ、信大や他医療施設ではどうしているのか、聞きたかったです。講演会はNIP Tで陽性となっても、妊娠の継続を勧める方向での話だったのでしょうか？中断を選択された方にはどのようなフォローをしたのか、という話もお聞きしたかったです。

新たに知ることも多く勉強になりました。

特にお母さんがたのお話は心に沁みました。

お母さん達の子育ての様子、お気持ちが聞けて良かったです

温かい雰囲気の中大変勉強になりました。慎重に温かい周産期医療を担っていければと思います。

講演前の考えと講演を聴いてからの考えが少し変わりました。

とてもデリケートな問題であり、人によって考えや思いも違うので慎重にしなければいけないとは思いますが、医学の進歩とともに医療側の情報提供や提起のあり方を考えさせられました。いずれにしても、丁寧に寄り添って支援していく体制を整えていく事が大切かと思いました。

とても良かったと思う。

大変勉強になりました。

現場の先生方のお考えや、障害を持って産まれたお母さんやお子様達の状況が分かって、良かったです。

障害のあるお子様やお母さん達は、幸せに暮らしておられることを、もっと社会の中で共有していくことが、大切だと感じました。

色々な方から、色んな視点で講演がきけて良かったです。色んな選択肢がある中で、ご家族が知って、理解して選択できるようになればいいと思います。

何も知らないことから参加して、たくさんのお話を聞かせられました。これからも考え続けていくことが大切だと思いました。

専門的な内容で少し難しかった。答えがないことが難しいが、医療の進歩と情報提供が優生保護法などに繋がりがねないかという心配もある。

我が子に出会えるよるこびをたくさんの人に感じてもらいたかったです。

妊婦さんに対応する際の参考になりました。

YS外来、いちご外来でしっかり対応していただきありがたいと思います。

興味深い内容であり、タイムスケジュールに余裕を持って質問者との対話の時間をもっと充実できて良かったのではと感じますが、色々な角度からの多彩な講演会でとても良かった。

古庄先生のお話は、全ての子どもに対する優しさが感じられた。
正しい情報を周知されないで、ネット検索できる無認可施設などで検査をする方に流れるのだと思う。出生前診断を希望するか否かに関わらず、母親学級など集団指導で、今日のようなお話を聞く機会があれば良いなと思った。また、母親の一人で決める検査ではないと思うので、検査ができるようになった以上、多くの方にそのリスクも認識してほしい。
病院で働いていた時に、染色体疾患のある子の子育ての様子について知識が少なかった。今回の様なお話を、医療者がもっと知っておくことも必要だと思った。

医療従事者として今後妊婦さんに関わったり、自分自身が当事者になった時にとっても役に立つ講演、体験談だったと思います。

ダウン症の母親の体験談を聞き、母親の気持ちの変化や感じていることなど知ることができてよかった。

出生前診断の認識が変わりました。言葉が先行してしまいましたが、今回の講演会で聞いたことを少しでも職場等で共有していければと思います。

胎児の人権など倫理的にも慎重に取り扱わなければならない課題であると感じます。

情報提供は口頭ではなくても妊婦さんが目を留めるところに掲示して、妊婦さんから問い合わせがあったら答える等の方法でもよいのかなと考えます。

とても貴重な勉強会をありがとうございました！

医学部の学生の話はあまり理解できなくて、関係ない話のように思えた。また、医師だけではなく、もっと妊婦にもっと身近にいる助産師・看護師の話も聞きたかった。現役のママからの話しはとても良かった。もっと聞きたいと思った。彼女らの話は医師や看護師にとって警鐘にもなるから。

考えさせられる事がたくさんあった

様々な視点から考える有効な時間になりました。ありがとうございました。

産婦さんに検査の正しい情報提供、検査結果と検査後のフォローが大切と感じました

名前だけが独り歩きしており、詳しい情報を知らないまま案内することもありました。今回しっかりと概要が学べたことは大変勉強になりました。ありがとうございました。

医療側の必然性が理解できました。場合によっては必要なことだと思います。障害の子を育てた立場としては、生まれた子は育てる！日々いろいろ悩みながらでしたが、それなりに幸せも感じています。元気な子が生みたい、理解できます。そもそも障がいのある子を育てる環境、理解をととのえることが優先かと思います。診断より生活の安定かと・・・。安心して生み育てることにつながるのであれば良いかと・・・。気持ちはすっきりしませんでした。こういう所に参加できない大勢の障がいを持つ家族もいます。もっと耳を傾けてください！（医療従事者・家族会）

とてもよかったです。あたたかい気持ちになりました。（医療従事者）

出生前診断は母児のみのためだけでなく、社会全体が幸せになるために安心して子育てできるような社会になるために、役立つ医療になるといいなと思いました。（医療従事者）

とても勉強になりました。ありがとうございました。（医療従事者）

妊婦さんでも出生前診断を受ける人と受けない人がいて、陽性とわかって悩む人が多いのもわかるなって思いました。少しでも多くの妊婦さんが出生前診断を受けた方がいいなと思いました。障がいを持つ子がいたとしても不幸だとは思わない、幸せだと思って子育てしているということを知れてとても良かったです。ダウン症について長野県にもひまわりの会があることを知れてとても良かったです。とてもいい勉強になりました。（学生）

お母さんたちの話が参考になりました。（医療従事者）

障がいのある子を育てての方のお話がとても印象的でした。大変だろうなとおもってしまっていたのですが、とても幸せで教わることも多いというのが印象的でした。3人の男の子を育ててますが毎日イライラおこってばかりの自分が恥ずかしくなりました。ありがとうございました。（医療従事者）

NIPTについて初めてお話をきかせていただきました。お母様方のお話からとても自分の認識を変えていただくエネルギーをたくさんいただきました。お子さんたちの笑顔がとてもすばらしく感動いたしました。「障がいを持つことが不幸ではない」というおことばから、たいへんそうだなという印象が大きかったことが、自分の中にあったことがわかりました。1人1人の幸せを願い、選択肢を増やし伝えていくことの大切さを学びました。本日は貴重なお話を聴かせていただき大変ありがとうございました。（その他）

親の会の話がとてもよかった。障がいがあることは不幸ではないということばが印象的だった。（その他）

ダウン症児、18トリソミーのお子さんの様子や保護者の方のお話をお聞きできて本当に良かったです。今の思いは寄り添う際もこの先のイメージを持って相談にのれると良いと感じました。ありがとうございました。

みなさんのすばらしいお話が伺えて感謝です。（医療従事者）

とても勉強になりました。今後の業務や人生に活かしていきたいです。ありがとうございました。（医療従事者）

分かりやすく内容も良かったです。ありがとうございました。母親、家族ってすごいな（医療従事者）

NIPT検査に関わる予定の医療従事者として、助産師としてPtと向き合いどのようにお話をきいていくのか、どのように関わるか、「怖い」が先立っていましたが、どのような思いがあるのか、どのような不安があるのか、丁寧に丁寧に思いを聞いていくことが大切だと思いました。もし出産を決めた妊婦さんには精一杯よりそい「個を大切に」に伝えられたら良いです。わかりあえたらいいなと思いました。（医療従事者）

出生前診断について考える時、どう生きていくか、どう子育てしていくかまで考え、その人の思いを充分きいて情報を伝えていく必要がある。障がいがあることがけして不幸ではない、その人の考え方と社会のサポートのあり方が重要なのだと改めて勉強になりました。ありがとうございました。（医療従事者）

すべての先生の講演に引き込まれました。お子さんを育てているお母様たちのお話には、笑ったり泣いたり（けしてネガティブな泣きではなく心温まること）と感動しました。決して正解を出すことではないので、知ること、考えること、日常の中で語り合えるような環境になるとよいと思いました。（医療従事者）

貴重なお話を伺うことができ良かったです。今後の北信圏域のために何がよいか考える機会となりました。（医療従事者）

看護学生ではあるがNIPTのことをよく知らなかったなと思った。インターネットにはさまざまな情報が入り混じっているのできちんと正確な情報を提供することが大切だなと思った。お母さん方の話しがとても印象的だった。障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちが元気で過ごせる社会づくりが根底にあると感じた。

NIPTの開始に伴う注意点に限らず、NIPTの先にある発達、療育の話（親御さんのお話）も伺えてよかったです。ありがとうございました。また、検査を望む方に注目して、検査を望む理由の方を解消しようとする発想はNIPTに限らず、医療で求められるものだと感じました。（学生）